

[様式14]

(対象事業：ミュージアムを核とした地域文化資源の整備・活用に関わる事業)

事業名：特別展「安曇野でみる彫刻」展

事業者名：安曇野市豊科近代美術館

連携事業館名：安曇野市豊科郷土博物館

住所：長野県安曇野市豊科5609-3

TEL：0263-73-5638

FAX：0263-73-6320

HPアドレス：<http://www.h6.dion.ne.jp/~art-toyo/>



### ①施設概要

平成4年4月18日、豊科近代美術館として開館。収蔵作品は、日本の近代彫刻の巨匠、高田博厚の彫刻作品約189点と、森鷗外ゆかりの画家、宮芳平の絵画作品約2000点。また、安曇野出身で信州を代表する作家、小林邦のデッサン、スケッチブック等、約170点も収蔵。

展覧会は、独自の視点から近現代の美術を幅広く取り上げ紹介し、また講演会、音楽会などの開催をとおして、教育学習活動にも勤めています。

### ②事業の意図目的

安曇野における彫刻の伝統は、日本の近代彫刻の歴史に即しながら、現在まで脈々とつながっている。安曇野ゆかりの作家をたどりながら、その業績を顕彰する。

また、子どもたちが「彫刻」を知り、制作を体験する機会を設け、安曇野の彫刻を次代へ繋がることを期する。

### ③事業概要

1. 展覧会事業 特別展「安曇野でみる彫刻」

2. 教育普及事業

(1) 彫刻ワークショップ

展覧会出品作家が中学生・高校生に直接指導を行う。制作した作品は、会期中美術館に展示。

(2) ギャラリートーク

(3) 屋外彫刻鑑賞ツアー

安曇野各地に設置された屋外彫刻を巡り、郷土の彫刻を再発見する。

3. 美術館連携事業 夜のミュージアム

安曇野に点在する美術館と連携し、夜間開館を行い、新たな利用者の来館を誘う。

### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他 ( )

作成した報告書等

ビデオ ( )

冊子 ( )

その他 ( )

### ⑤参加者状況

参加者人数 延べ 4,899人

内 訳 入館者数 豊科近代美術館 3,468人・郷土博物館 1,431人

(彫刻ワークショップ等参加者数 312人)

## (1) 事業の実施状況について

### 1. 展覧会事業

特別展「安曇野でみる彫刻」は3部構成で展示を行った。第1部として、荻原守衛後の安曇野の彫刻界を支えた小林章・小川大系に注目し、第2会場である豊科郷土博物館に作品等の展示を行った。両者とも安曇野各地の公共施設に作品が収蔵され、屋外彫刻が設置される作家であるが、作家の死後の時間の経過とともに、その存在感が薄れている。屋外彫刻の再発見とともに地域を知る機会とした。

第2部として、豊科近代美術館において、現在活躍中の作家の作品を展示した。丸山雅秋・山崎豊三・小林亮介・片桐克彦は、安曇野に在住する彫刻家で、国際的に活躍する作家もいるが、その存在は知られていない。作品を展示すると同時に、中学生・高校生向けの彫刻ワークショップの指導を依頼した。

第3部は、収蔵する高田博厚の作品とともに、舟越桂の作品を展示した。両者とも安曇野とは縁の無い作家であるが、彫刻界に影響を与えた新旧の作家である。安曇野の作家たちの作品と同時に知る機会とした。また、小林且典のインスタレーション作品を展示し、彫刻の新しい方向性を示した。

### 2. 教育普及事業

#### (1) 彫刻ワークショップ

展覧会に出品した作家が、生徒や一般参加者に直接、彫刻の指導を行うワークショップを開催した。4人の作家は、ブロンズ・アルミ・石・ワックスといったそれぞれ異なる材料を用い、素材の違いを生かしたワークショップを行った。いずれも日常生活とはあまり縁のない素材であり、参加者には貴重な体験となった。制作した作品は会期中、美術館に展示した。

#### (2) ギャラリートーク

出品作家の中には、ワークショップを行うよりも、歴史や社会を知った上でないと美術の理解は深まらなないと考える作家もあり、直接ギャラリートークを行うことにより分かりにくい抽象彫刻の鑑賞の機会を設けた。

#### (3) 屋外彫刻鑑賞ツアー

安曇野各地に設置された屋外彫刻と、安曇野に点在する美術館等に収蔵された彫刻作品を巡る鑑賞ツアーを行った。講師には小林章とも交流のあった元豊科郷土博物館長の二木福治氏に依頼し、彫刻家の視点と知己の視点から解説を行っていただいた。町並みの中に溶け込みその存在が忘れられつつある作品を改めて見直し、郷土を知るツアーとした。

### 3. 美術館連携事業「夜のミュージアム」

安曇野には、20館以上の美術館・博物館が存立している。「安曇野アートライン」と名づけられた連絡協議会が設置されているが、お互いに協力し合い有効に機能してい



るとは言えない状態である。今回の試みでは、夏の夜に一齐に夜間開館を行うことにより地域として周知をはかるとともに、相互に協力しあう機会とした。また、夜間開館と同時に各館でイベントを行い、普段は美術館を利用しない層や、美術館に来館したくても時間が合わない層の利用を促した。

## （２）地域との連携について

### 1. 豊科郷土博物館との連携

豊科近代美術館と豊科郷土博物館は安曇野市豊科地区の中心地区に設置されており、同じ財団が運営する公立館でありながら、これまで展覧会事業を連携して開催することは無かった。この２館を結ぶ地域には公共施設も林立しており、そこには屋外彫刻が数多く設置されている。２館で彫刻の展覧会を行うと同時に、それらの屋外彫刻を知る機会を設けた。

今回の展覧会では、共通のチケット・ポスター・チラシを作成し連携して周知をはかった。会期中には「夏休み自由研究サポート会」と名づけたイベントを開催し、各館所管の分野で小中学生とその保護者向けのワークショップを開催した。会場は当館に設け、彫刻ワークショップとともに自然観察会や絵地図の指導等を行った。

### 2. 市内中学校・高等学校との連携

豊科近代美術館では、ここ数年、美術館と学校との連携授業を数多く開催してきた。本年はこの彫刻展に合わせて、彫刻ワークショップを開催することができた。ワークショップの講師は地元に住む作家であり、親しみやすいワークショップとなった。

学校から美術館へ移動する際に問題となるのが交通手段であるが、美術館側で準備することにより利用を容易にした。

さらに、来館の困難な学校へは講師とともに出前ワークショップを行った。

### 3. 安曇野アートラインとの連携

安曇野アートライン加盟館と同時に「夜のミュージアム」と称し夜間開館を行った。アートラインに加盟していない施設にも呼びかけ、広く開催することができた。来館者には参加施設のオリジナルポストカードを配布した。これは「安曇野でみる彫刻」展にちなみ、各館の収蔵彫刻を紹介する内容を含むものとした。これらは各館の学芸員の協力で作成することができた。

また、夜間開館中は各館でイベントを行った。これは運営上、無理のない範囲内で行えることを行うこととし、当館では近隣に住む歯科医でビブラフォン奏者の伊佐津和朗さんを講師に、ジャズレコードコンサートを行った。必要な機材・スタッフも全て地域の皆さんの協力を得て集めることができ、美術館を核とした地域・世代交流ができた。

各館の収蔵する彫刻を訪ねて回る鑑賞ツアーでは、アートライン加盟館の収蔵彫刻の鑑賞も行っている。

### （３）成果物について

会期中のワークショップでは、ブロンズ鑄造ワークショップ、「いみのないかたち」の石彫つくり、「シートワックスでどんなかたちができるかな」、アルミニウム彫刻の４つのワークショップを市内の中学校・高等学校６校を対象に開催した。それぞれの成果物は、会期中に会場内に展示し多くの来館者に鑑賞してもらうことができた。また、展覧会終了後は参加者へ返却している。芸術家という日常生活ではあまり接することのない職種の皆さんと接することにより、普段とは異なる視点や考え方を体験する機会となり、それぞれが創造力あふれる作品を制作することができた。

この事業を通じての記録冊子を作成しているので参考にさせていただきたい。

### （４）参加者の反応

会場アンケートより

#### ○展覧会について

じっくり鑑賞できました。落ち着いた雰囲気良かったです。

この美術館の間取りをととてもよく生かした企画だと思いました。（特に夏の夜の公開に向いていると思いました。

夜の美術館は昼間と違った雰囲気があり、とても良かった。夏だけでなくほかの季節もやったらどうでしょうか。

豊科近代美術館の建物が、修道院と回廊風でとても雰囲気があった。

今までより多くの作品が順路良く配置されており鑑賞しやすかった。

監視員がいなくてゆっくりできた。

２館会場使用企画とても良いですね。久しぶりにあちらものぞきたくなりました。名のある地元作家の作品展はとても良いのではないのでしょうか。面白かったです。

初めて中を見て、いろいろな作品があつてすごかった。

目で見るだけでなく、手の目心の目で作品を知ることができてとても良かったです。

落ち着いた雰囲気が深い。気持ちよく鑑賞できた。また訪れたい。

ワークショップアンケートより

#### ○講師から学んだこと

絵だけが芸術と思いましたが、彫刻も芸術と分かって楽しかった

発泡スチロールの削り方でアルミの出来上がりがちがうこと

立法的な形をとるのを詳しく教えてもらってどうやって形をとるのかわかった

作品に自分らしさを入れること

彫刻の素晴らしさ

たくさん磨くことで輝くこと

#### ○ワークショップについての感想

今まで全く触れることの無かったシートワックスで作品を制作することは楽しかった  
すぐに硬くなってしまつて作るのは大変だったけれど自分の思いに描いた物が作れたのでよかった



一日中、一つの彫刻に向き合うことで根気や達成感が味わえた  
彫刻にも面白さがあって勉強になりました  
きれいに削って形を作るのが楽しかった  
初めてやったけどとても楽しくできた  
発泡スチロールを削るとき少しストレス発散になった  
とてもいい経験になってこれからの活動に生かしていきたい  
発泡スチロールを削るのが大変だったし、アルミの作品もあまり削れなかった  
アルミニウムのヤスリがけなど力を使うところが多くて大変だったけど、ヤスリがけ  
がきれいにできたことが嬉しかった  
発泡スチロールで型を取って、それからアルミニウムになり、それをぴかぴかにする  
のが楽しかったです。

#### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

展覧会事業においては、安曇野出身の彫刻家たちが日本の彫刻の歴史の中でどのような位置にあるのか示す機会となった。当地出身の作家も中央の彫刻の潮流から外れることなく活躍してきたことを、作品を集め展示することにより、作家について再評価を行う機会となった。地域の各所に設置・収蔵された作品がどのようなものなのか、もう一度見直しながら、地域のことを知る機会となった。

地域に点在する作品を巡りながら、風土や郷土の歴史を学ぶ機会となった。決して全国的に有名な作家や作品ばかりではないが、他の施設との連携により地域をあげて、彫刻に注目し、彫刻作品による「町おこし」「ミュージアムタウン」の可能性を考える機会となった。

教育普及面においては、当館では、ここ数年、学校との連携事業を継続して開催してきた。学校側の期待とは裏腹に、当館の事業予算だけでは実施が困難な状況が続いている。この事業を実施することにより本年も多くの子どもたちに美術館に接し、学ぶ機会を作ることができた。授業の中では行うことができない作品制作や芸術家と交流により子どもたちも得るものが多かったのではないだろうか。

また、中学校の美術鑑賞授業に利用してもらった。上述のワークショップや写生会に来館した際に、時間をとって鑑賞授業を行った。美術の授業時間が削減されている中ではこのような方法しか取れなかったが、多くの生徒に現代彫刻を楽しんでもらうことができた。

また、一般向けにもワークショップへの参加募集を行っている。参加者は少なかったものの本格的な彫刻に満足した様子であった。作る楽しみから、彫刻への関心を高めることができた。

当地には、国公立を問わず多くの美術館・博物館などの施設があるが、本格的な連携にまでは至っていない。今回の「夜のミュージアム」では実施館のそれぞれの努力により、各館それぞれの手応えがあったようだ。来年以降の同イベントの継続が議論されるようになり、また、今回不参加であった施設も実施を検討することになった。この事業の実施が、このような連携事業を模索する機運を高めたといえる。

(6) 新聞記事等

○新聞記事



信濃毎日新聞平成 19 年 9 月 6 日朝刊 19 面

同様の新聞記事

中日新聞（長野版）平成 19 年 8 月 7 日 朝刊 22.面



中日新聞（長野版）平成 19 年 8 月 5 日 朝刊 20 面

同様の新聞記事

市民タイムス 平成 19 年 9 月 11 日 朝刊 9 面

○テレビ、関連誌等

NHK長野放送局「ニュース」

平成 19 年 9 月 13 日 6 時 45 分～7 時 00 分（3 分程度放映）

平成 19 年 9 月 13 日 12 時 45 分～13 時 00 分（3 分程度放映）

あづみ野テレビ「ギャラリー安曇野」

平成 19 年 8 月から 9 月（30 分程度放送）